



アップグレード中のサーバ交換

本書では、サーバで実行するアプリケーションは Cisco CallManager だけであることを想定しています。また、Cisco CallManager、Cisco Customer Response Solutions (CRS)、およびサードパーティ製のシスコ認定のアプリケーションが同じサーバにインストールされている共存サーバの交換に関する手順については説明していません。

これから説明する手順を使用して、パブリッシャ データベース サーバだけ、サブスクリバ サーバだけ、複数のサブスクリバ サーバ、またはパブリッシャ データベース サーバとサブスクリバ サーバの両方を、アップグレード中に交換することができます。マニュアルで特に指示のない限り、すべての手順は順次、つまり一度に 1 台のサーバに対して行ってください。



注意

これらの手順により、コール処理が中断されます。同じメンテナンス ウィンドウ内でこの手順を実行することを強く推奨します。バックアップの実行後は、既存のパブリッシャ データベース サーバを変更しないでください。バックアップ後に行った変更内容は、新しいデータベース内には存在しません。

Cisco CallManager 4.2(1) アップグレード中の Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバの交換

次の手順を実行してください。

手順

- ステップ 1** 既存の Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバに関して、**ステップ 2 ～ ステップ 6** を実行します。

既存の Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバで作業を実行（必須）

- ステップ 2** 現行システムのコンピュータ名、ネットワーク カードの Speed 設定および Duplex 設定、IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNS、および WINS などの、すべてのネットワーク設定を記録します。既存のクラスタ内のサーバの設定を記録します。つまり、すべてのソフトウェアバージョン、Cisco CallManager サービス、共存アプリケーション、およびプラグインを記録して、アップグレード後に、これらを再インストールできるようにします。表 6-1 にこれらの情報を記録します。

表 6-1 サーバ設定

サーバ設定	ユーザ使用欄
コンピュータ名	
NIC Speed/Duplex 設定	
IP アドレス	
サブネット マスク	
デフォルト ゲートウェイ	
DNS 設定	
WINS 設定	
Cisco CallManager サービス (Cisco CallManager Serviceability を参照)	
共存アプリケーション (アプリケーション タイプとバージョンを記録)	
サードパーティ製のシスコ認定のアプリケーション (アプリケーション タイプとバージョンを記録)	
Cisco CallManager Administration のプラグイン	
その他の関連情報	

- ステップ 3** 4 つのドライブを持つサーバを交換している場合は、サーバのトレース ディレクトリ パスをデフォルトの C: ドライブに設定することを推奨します。『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

- ステップ 4** 『Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Administration Guide』を参照して、次の作業を実行します。本書の最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm> にアクセスしてください。

- a. パブリッシャ データベース サーバで Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Version 4.0(7) (またはそれ以降) をインストールして設定し、サーバをリブートします。

- b. 既存の Cisco CallManager データをバックアップします。

**注意**

ネットワーク ディレクトリまたはローカル テープ デバイスにデータを確実にバックアップしてください。

バックアップの実行後は、既存のパブリッシャ データベース サーバを変更しないでください。バックアップ後に行った変更内容は、新しいデータベース内には存在しません。

- ステップ 5** HOST ファイルおよび LMHOST ファイルを、C:\WINNT\SYSTEM32\DRIVERS\ETC からバックアップ データが保存されているネットワーク ディレクトリにコピーします。この作業は、フロッピー ディスクで実行できます。

- ステップ 6** Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバの電源をオフにして、ネットワークから切断します。

新規のパブリッシャ データベース サーバを準備

- ステップ 7** 新規のサーバをネットワークに接続して、サーバの電源をオンにします。シスコが提供するオペレーティング システム ディスクを使用して、まだデータのない新規のパブリッシュ データベース サーバにオペレーティング システム バージョン 2000.4.2sr2 をインストールします。オペレーティング システムのマニュアルを入手するには、http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/iptel_os/index.htm にアクセスしてください。

**注意**

オペレーティング システムのインストールでは、New Installation and Server Replacement オプションを必ず選択してください。正確なコンピュータ名と、Cisco CallManager を実行するパブリッシャ データベース サーバのネットワーク設定情報を入力する必要があります。I am recovering a system from backup チェックボックスはオフにしてください。新規のパブリッシャ データベース サーバを Windows のドメインに参加させないでください。ドメインに参加させると、Cisco CallManager のインストールが失敗します。

- ステップ 8** Cisco CallManager に付属する Cisco IP Telephony Server Operating System OS Upgrade Disk を使用して、シスコが提供するオペレーティング システムをバージョン 2000.4.2sr2 にアップグレードします。アップグレードを実行する前に、オペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに記載されているオペレーティング システムの readme 情報を必ず読んでください。このサイトには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> の Cisco CallManager ソフトウェア ページからアクセスできます。

- ステップ 9** 最新の Cisco IP Telephony Server Operating System サービス リリース (2000.4.2sr2 またはそれ以降) をダウンロードして、インストールします。オペレーティング システム サービス リリースは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。

インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates』、および『Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。

ステップ 10 最新の OS 関連のセキュリティ ホットフィックスがある場合は、ダウンロードしてインストールする。

オペレーティング システムに関連するセキュリティ ホットフィックスは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。

インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates』、および『Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。

ステップ 11 Host ファイルおよび LMHOST ファイルを新規のパブリッシャ データベース サーバの C:\WINNT\SYSTEM32\DRIVERS\ETC にコピーして、サーバをリブートします。

ステップ 12 『Cisco CallManager Release 4.2(1) インストールガイド』を入手します。最新版を入手するには、http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm にアクセスしてください。

ステップ 13 『Cisco CallManager Release 4.2(1) インストールガイド』を参照して、Cisco CallManager のインストールを実行します。

**注意**

サーバを交換する場合は、現在のバージョンの Cisco CallManager で新規サーバを作成します。新規サーバにデータベースを復元して、リリース 4.2 (1) へのアップグレードを実行します。

ステップ 14 バックアップ データを新規のパブリッシャ データベース サーバに復元します。バックアップと復元のユーティリティのマニュアルを入手するには、<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm> にアクセスしてください。

**ヒント**

新規のサーバが予期したとおりに動作することを確認します。インストール後およびアップグレード後の作業を検討し、必要な作業を確認して実行してください。インストール後の作業に関して Cisco CallManager のインストール マニュアルを入手するには、http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm にアクセスしてください。アップグレード後の作業を検討するには、P.3-1 の「アップグレード後の作業の実行」を参照してください。

Cisco CallManager 4.2(1) アップグレード中の Cisco CallManager サブスクリバサーバの交換

サブスクリバサーバでの Cisco CallManager のインストールは順次、つまり一度に 1 台のサーバで実行する必要があります。



注意

パブリッシャ データベース サーバおよびサブスクリバ サーバを交換する場合は、最初にパブリッシャ データベース サーバを交換し、データを移行してサービスが予期したとおりに開始したことを確認します。

これらの手順は、パブリッシャ データベース サーバが活動している活動中のネットワーク上で実行します。



ワンポイント・アドバイス

新規のハードウェアが現在のシステムと同じネットワークに接続されていない場合、必要に応じて、オペレーティング システムのインストールをすべての新規サーバで同時に実行できます。本書の手順に従って、物理的に分離されたネットワークでオペレーティング システムを確実にインストールします。この方法でオペレーティング システムをインストールすると、実稼働ネットワークに実際のハードウェアを移行するときに、サーバ当たり約 1 時間プロセスを短縮できます。



ヒント

1 番目のサブスクリバサーバをインストール後、そのサーバとアプリケーションが予期したとおりに動作することを確認します。サーバが予期したとおりに動作しない場合は、活動中の（新規の）パブリッシャ データベース サーバとサブスクリバサーバの電源をオフにし、パブリッシャ データベース サーバの電源をオンにして、サブスクリバサーバを元の状態に再構成します。サブスクリバサーバのハードウェアを交換した場合は、旧サブスクリバサーバの電源を復旧します。

2 番目のサブスクリバサーバをインストールして予期したとおりに動作することを確認した後で、クラスタを元の状態に復元することを選択した場合、コール処理の中断が発生することがあります。

手順

- ステップ 1** 現行システムのコンピュータ名、ネットワーク カードの Speed 設定および Duplex 設定、IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNS、および WINS などの、すべてのネットワーク設定を記録します。既存のクラスタ内のサーバの設定を記録します。つまり、すべてのソフトウェア パッケージ、Cisco CallManager サービス、共存アプリケーション、およびプラグインを記録して、アップグレード後に、これらを再インストールできるようにします。これらの情報を記録するには、表 6-1 を使用します。
- ステップ 2** Cisco CallManager サブスクリバサーバの電源をオフにして、ネットワークから切断します。
- ステップ 3** 新規のサーバをネットワークに接続して、サーバの電源をオンにします。

- ステップ 4** シスコが提供するオペレーティング システム ディスクを使用して、まだデータのない新規のサーバにオペレーティング システム 2000.4.2sr2（またはそれ以降）をインストールします。

**注意**

オペレーティング システムのインストールでは、**New Installation or Server Replacement** オプションを必ず選択してください。

I am recovering a system from backup チェックボックスはオフにしてください。

オペレーティング システムのインストール中は、サーバを Windows のドメインに参加させないでください。ドメインに参加させると、Cisco CallManager のインストールが失敗します。

- ステップ 5** Cisco CallManager に付属する Cisco IP Telephony Server Operating System OS Upgrade Disk を使用して、シスコ提供のオペレーティング システムをバージョン 2000.4.2sr2 にアップグレードします。アップグレードを実行する前に、オペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに記載されているオペレーティング システムの readme 情報を必ず読んでください。このサイトには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> の Cisco CallManager ソフトウェア ページからアクセスできます。

- ステップ 6** 最新の Cisco IP Telephony Server Operating System サービス リリース（2000.4.2sr2 またはそれ以降）をダウンロードして、インストールします。オペレーティング システム サービス リリースは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。

インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates』、および『Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。

- ステップ 7** 最新の OS 関連のセキュリティ ホットフィックスがある場合は、ダウンロードしてインストールする。

オペレーティング システムに関連するセキュリティ ホットフィックスは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。

インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates』、および『Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。

- ステップ 8** Cisco CallManager Installation ディスクを使用して、オペレーティング システムをインストールした新規サーバで完全なサブスクライバインストールを実行します。詳細については、Cisco CallManager のインストール マニュアルを参照してください。
http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm にアクセスしてください。

**ヒント**

サーバに Cisco CallManager をインストール後、新規のサーバが予期したとおりに動作することを確認してください。インストール後およびアップグレード後の作業を検討し、必要な作業を確認して実行してください。インストール後の作業に関して Cisco CallManager 4.2(1) のインストール マニュアルを参照するには、http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm にアクセスしてください。アップグレード後の作業を検討するには、P.3-1 の「アップグレード後の作業の実行」を参照してください。

アップグレード中のハードウェア交換のトラブルシューティング

サーバが予期したとおりに動作しない場合は、必要に応じて、活動中の（新規の）パブリッシャ データベース サーバとサブスクリイバ サーバの電源をオフにし、パブリッシャ データベース サーバの電源をオンにして、サブスクリイバ サーバを元の状態に再構成します。サブスクリイバ サーバを交換した場合は、サブスクリイバ サーバの電源を復旧します。

■ アップグレード中のハードウェア交換のトラブルシューティング